



A **安心して暮らし続けられるための支援の検討**

高齢者が安心して暮らし続けられるための支援を検討する。その他の、①中学生へのピロリ菌検査の実施②高齢者向けシェアハウスの設立③独り身の高齢者の最期支援を考えることができるか伺う。

Q 健康増進ビジネスモデルや生涯お達者市民推進プロジェクトで高齢者支援をしていくが、その他に、①中学生へのピロリ菌検査の実施②高齢者向けシェアハウスの設立③独り身の高齢者の最期支援を考えることができるか伺う。



A **国や県の方針を踏まえ、市教育委員会の方針を示す**

市内の部活動の現状としては、小笠中学校体育連盟との協議により、教職員の負担軽減についても考え、基本的に定期間は部活動を行わないよう指導しています。今後国や県の方針を踏まえ、関係団体と協議し、掛川市教育委員会としての方針を示していきます。

Q 過労死ライン(2ヶ月の超過勤務80時間)を超えるが、中学校では60%以上ある今、部活動のあり方に改進の方向で各学校に指示を出すべきと考えるがいかがか。

また、シェアハウスの設立については、研究すべき課題ではあります。まちづくり協議会等で実施している高齢者サロンが、生きがいや介護予防にも繋がる重要な事業であると考え、全地域への拡充を推進します。

さらに、独り身の高齢者の長期支援では不安を解消できるよう、ふくしあ等の相談窓口でサポートや周知をしていきます。

A **夢実現に向かう、心豊かで凜とした市民の育成に努める**

新学習指導要領で示された3つの柱は、「21世紀型スキル」を参考に掛川市で定めた「かけがわ型スキル」の視点とほぼ一致しています。今後も、「かけがわ型スキル」の育成をはじめとして、夢実現に向かう、心豊かで凜とした市民の育成に努めています。

Q 新学習指導要領「生きる力」を育成するため本市として、具体的にどのような教育の実践を行うのか。また、授業時間数の大幅増加の対応策や部活動のあり方等を伺う。



A **地域との交流を大切にした学校で影響が大きい**

横須賀高校は、地域との交流を大切にし、郷土への愛着を育む校風で、結果的に地元企業への就職者が多いことには繋がっていると感じています。地元に与える影響は大変なもので、横須賀高校のよき伝統をなくしてしまうような再編になると考へて、生徒を始め卒業生などの中学校関係者や地域のご意見とご要望を静岡県教育委員会へしっかりと伝えていきます。

Q 県立高等学校第三次長期計画案の中で、横須賀高校と池新田高校の再編統合計画が発表された。南部地域にある唯一の高校として大変重要であり、再編統合は絶対に認めできない。今後の対応を伺う。

横須賀高校と池新田高校の再編統合計画に反対